

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 創刊号

発掘調査開始のお知らせ

県営牛田・川除地区基盤整備事業に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を5月21日から開始していきます。

下記の地図の場所で発掘調査を行いますが、調査前に表土掘削のため、大型の重機が5月21日から現地に入ります。お騒がせしますが、ご理解ご協力のほどをよろしくお願い致します。

埋蔵文化財の発掘調査は、やむをえず開発によって失われてしまう地域の文化財を「記録」として残し、後世に伝えていく事業です。

「牛田・川除地区発掘ニュース」では、発掘調査で明らかとなった最新の情報を、いち早く地域の皆様にご紹介するため発行していきます。よろしくお願い致します。



平成30年度の発掘調査範囲図
(黒塗りの箇所に5月21日から重機が入ります。)

牛田川除地区発掘ニュース 創刊号
平成30年5月11日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 6月号

★今月のニュース★

5月21日から、平成30年度の発掘調査区に重機を入れて発掘調査を開始しました。遺跡は数千年の長い年月の間に土に埋もれています。そのため発掘調査では人力で調査を始める前に、重機で遺跡の上に堆積している土を取り除いていきます。

重機で遺跡がある高さ（確認面）まで掘り下げると、そこだけ色が違う黒いシミ（考古学では「プラン」と呼ぶ）が見つかることがあります。昔の家である^{たてあなじゅうきよし}竪穴住居跡は地表面を掘りこんで作るため、住居が使われなくなった後、竪穴住居跡の穴だけが残ります。穴はだんだんと埋まっていますが、掘り込まれた^{じやま}地山とは違う色の土が入って埋まることから、重機で平らに下げていくと穴のあった部分が黒く見えて遺跡があると判断できます。

牛田・川除地区の発掘調査は始まったばかりですが、竪穴住居跡と考えられるプランがすでにいくつか見つかっています。この場所に古代の集落が存在していたことがはっきりとわかりました。



重機での掘削写真
(遺跡が見つかる面まで平らに下げていきます)



見つかった竪穴住居跡（白線の内側）

牛田川除地区発掘ニュース 6月号
平成30年5月25日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 7月号

★今月のニュース★

発掘調査開始！

梅雨に入り天気が悪い日が多いですが、6月12日から本格的な発掘調査を開始しました。重機による表土剥ぎが進み、遺跡の様子がわかってきたので、『川除屋敷裏遺跡 B 地点』という遺跡名をつけました。遺跡名は遺跡がある土地の大字と小字を組み合わせ命名します。調査を実施しているすぐ近くでは平成20年度に川除屋敷裏遺跡が発掘調査されており、同じ遺跡であることがわかったため、B 地点という名称をつけています。

見つかった住居跡の調査を行っていますが、多くの住居が奈良時代（8世紀）くらいの時期であることがわかりました。まだ調査は始まったばかりですが、住居跡からは当時の人々が使っていた土師器という生活のための土器が見つっています。



遺跡の発掘風景



住居跡の中から見つかった土器

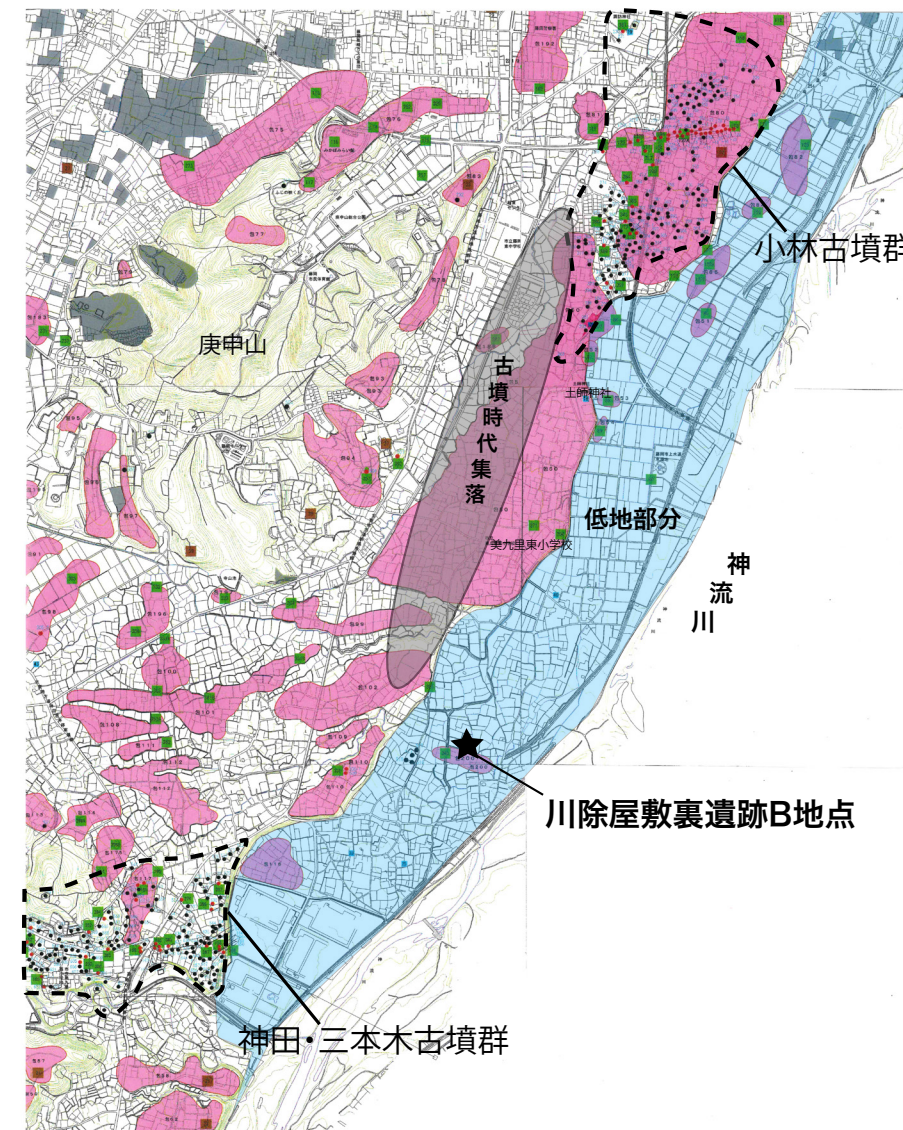
★ 美九里地区の遺跡紹介 ★

川除屋敷裏遺跡 B 地点の周辺

発掘調査を行なっている美九里地区には、多種多様な沢山の遺跡があります。下の地図は藤岡市で作成している遺跡分布図です。色が違う囲いがしてある部分（遺跡包蔵地）は遺跡がある可能性が高い区域で、この中や隣接地で開発をする場合は発掘調査が必要になることがあります。

川除屋敷裏遺跡 B 地点がある箇所は、神流川の西側の低地部分にあり、一段高い藤岡台地と比べ、遺跡包蔵地の箇所は少ないです。しかし、これは神流川の氾濫などで遺跡の上に厚く土砂が堆積し、遺跡が見つかりにくく近年まで遺跡の存在が把握しづらかったため、実は多くの遺跡が眠っていることがわかってきました。

今回の発掘調査でこれまで不明だった牛田川除地区の古代の生活が明らかになるかもしれません。



牛田川除地区発掘ニュース 7月号
平成30年6月22日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 8月号

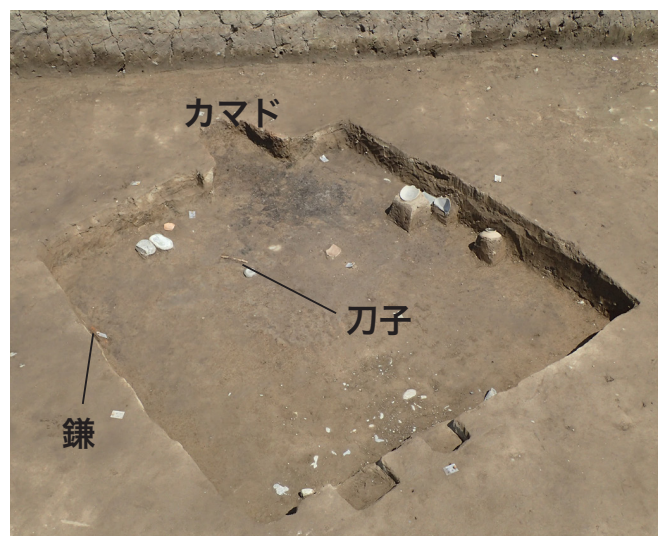
★今月のニュース★

奈良時代の鉄製品

梅雨があけ、暑い日が続いています。発掘調査を進めているところですが、発掘が予定されている箇所^{かわよけやしきうらいせき}の重機による表土掘削は7月中に完了しました。

現在は川除屋敷裏遺跡^{かわよけやしきうらいせき}B地点のⅡ区を中心に調査を行っています。現在までで30軒程度の奈良時代（8世紀）を中心とする住居が見つかり集落の様相が徐々に明らかとなってきました。住居跡の中からは当時使われた様々なものが見つかります。H-15号住居跡の中からは、奈良時代に使われた鉄製の鎌^{かま}や刀子^{とうす}というナイフが見つかりました。

見つかったのは鉄の部分だけで、ついていたはずの柄などは残っていません。しかし、鎌の形は現在のものとあまり変わらず、現在の道具の形が、この時代にすでに定まっていたと受け継がれていることがわかります。



H-15号住居跡



住居跡の中から見つかった鉄製品（左：鎌 右：刀子）



見つかった古代の鎌

★ 美九里地区の遺跡紹介 ★

神田・三本木古墳群

美九里地区には沢山の古墳があります。神田・三本木古墳群は6～7世紀代の古墳が集中する、川除屋敷裏遺跡よりやや古い時代の遺跡です。

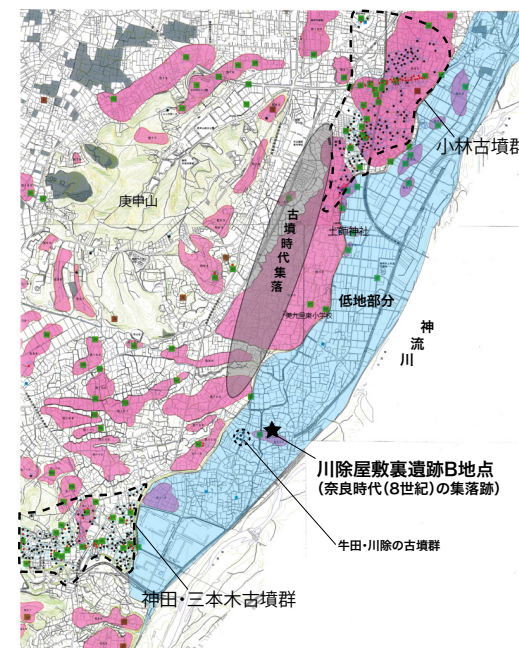
神田・三本木古墳群では204基の古墳が確認されています。平成23～25年度の土地改良事業に伴い、15基の古墳の調査をしました。その結果、多くの貴重な発見がありました。

1つ目が極めて保存状態の良い埴輪列が見つかったことです。古墳にどのように埴輪が据えられたかがわかる貴重な資料が得られました。この時、見つかった人物埴輪は現在、『発掘された日本列島2018』という全国規模の展示会に出品されています。

2つ目は古墳の墳丘を河原石で積み上げている古墳が見つかったことです。通常、古墳は土を使って作りますが、墳丘に石を使う珍しい作り方をする古墳が4基見つかっています。このような古墳は藤岡市ではほとんど見つかっていませんが、古墳に葬られた人の職業や身分を表している可能性が高いと言えるでしょう。



石で作られた古墳



見つかった人物埴輪
(古墳時代後期 6世紀後半)

牛田川除地区発掘ニュース 8月号
平成30年7月25日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 9月号

★今月のニュース★

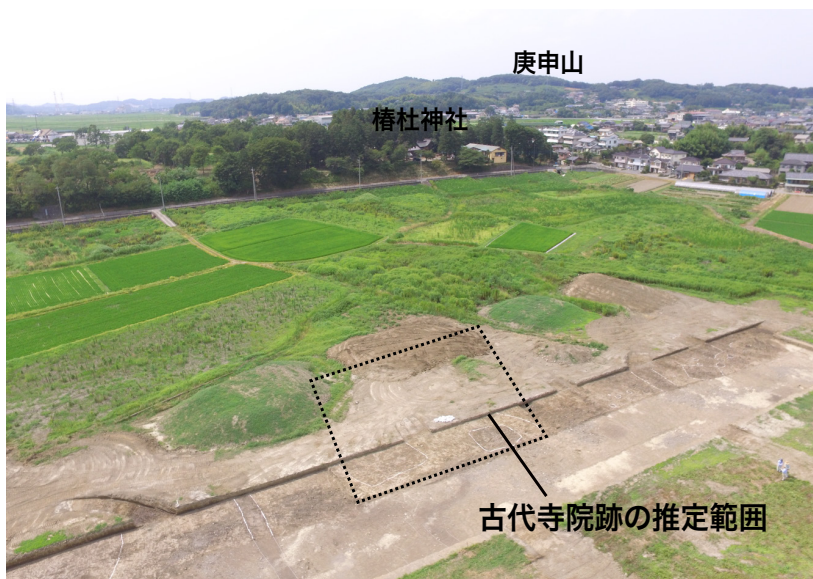
藤岡市で初の古代寺院発見！！

8月後半になりようやく暑さが和らいできて、発掘がしやすい季節となりました。

調査区の北端で予想外の遺跡が発見されました。それは約 1300 年前の古代寺院です。まだ発掘調査は行っておらず詳しい内容は不明ですが、寺院で使われた瓦が大量に見つかり、重い瓦屋根を支えるための基壇と呼ばれる土台部分が確認されました。

古墳時代の次の飛鳥・奈良時代には、仏教が政治の中で重要な位置を占めはじめ、これまで権力の象徴だった古墳の代わりに、寺院が各地に作られ、新たな権力の象徴となっていくます。藤岡市内では、発掘調査で確認できた寺院跡は今まで見つかっておらず、牛田で見つかった寺院跡が藤岡市内で初めての発見となります。

藤岡市には 1500 基程の古墳がありますが、古墳が作られなくなった後、どうなるのかは遺跡が少なくはっきりとはわかっていませんでした。この寺院跡の発見は、今まで空白だった飛鳥・奈良時代の様相を明らかにできる極めて重要な発見と言ってよいと思います。



発見された古代寺院跡（空撮）

※破線の中から大量の瓦が見つかり、寺院の建築物があった場所と考えられます。

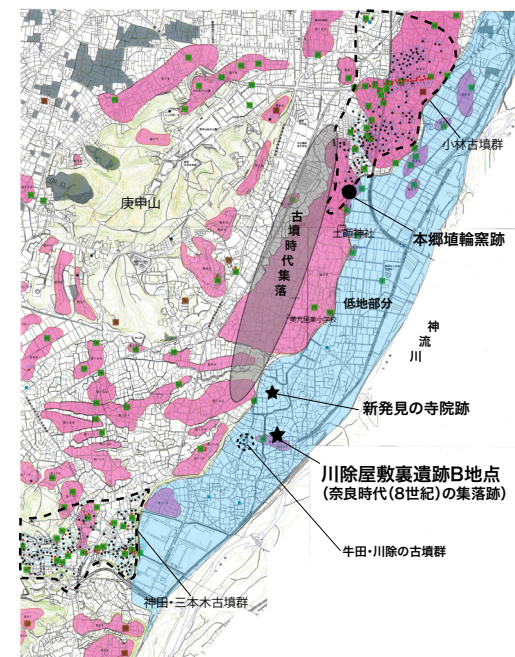
★ 美九里地区の遺跡紹介 ★

埴輪を焼いた製作跡 - 本郷埴輪窯跡 -

古墳には沢山の埴輪という焼き物が飾られます。藤岡市には豊富な粘土があり、燃料となる木々が取れる山間部も控えていることから、粘土を使った焼き物に最適な土地でした。そのため市内では埴輪や土器、瓦を焼いた窯跡がいくつも見つかり、その 1 つが美九里地区にある本郷埴輪窯跡です。

窯跡は明治 39 年、東京帝国大学の柴田常恵という考古学者に発見されました。あまり知られていませんが、ここが日本で初めて発見された埴輪窯跡になります。その後、昭和 18・19 年に群馬大学の尾崎喜左雄教授によって発掘調査がされています。現在、覆屋があり保存されているのは、尾崎教授が調査した窯跡ですが、この並びに 30 ～ 40 基の窯が並んでいたと考えられており、群馬県を代表する埴輪の生産地でした。

ここで焼かれた埴輪は藤岡市内だけでなく、群馬県や埼玉県の一部にも運ばれ、古墳に飾られていたことがわかっています。



尾崎喜左雄調査地点と保存されている本郷埴輪窯跡

牛田川除地区発掘ニュース 9月号
平成 30 年 8 月 24 日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 10月号

★今月のニュース★

古代寺院の発掘が始まりました

10月になり、調査も終盤の時期になってきました。

調査区の北端で発見された古代寺院の調査を、9月上旬から開始しました。徐々に寺院の内容が明らかとなってきましたが、寺院の具体的な年代がわかる資料が発見されました。それは寺院の屋根に葺かれていた軒丸瓦です。この時代の寺院の軒つまり屋根の外周をめぐる瓦には文様がついており、時代によって文様が変化するため、文様の種類によって年代が特定できます。

見つかったのは、軒丸瓦という瓦で蓮の文様が描かれています。専門的には、花びらの中が二つに分かれ（複弁）、7枚の花びらがある（7葉）ことから「複弁7葉蓮華文」と呼ばれています。仏教の中では蓮は特別な花のため、寺院の瓦にも蓮が描かれました。

この瓦は8世紀初頭に使われていたことがわかっており、この寺院も8世紀初頭に作られた可能性が高いです。群馬県内の8世紀初頭の寺院は非常に数が少なく、貴重な遺跡であることが再確認できました。



発見された「複弁7葉蓮華文」軒丸瓦



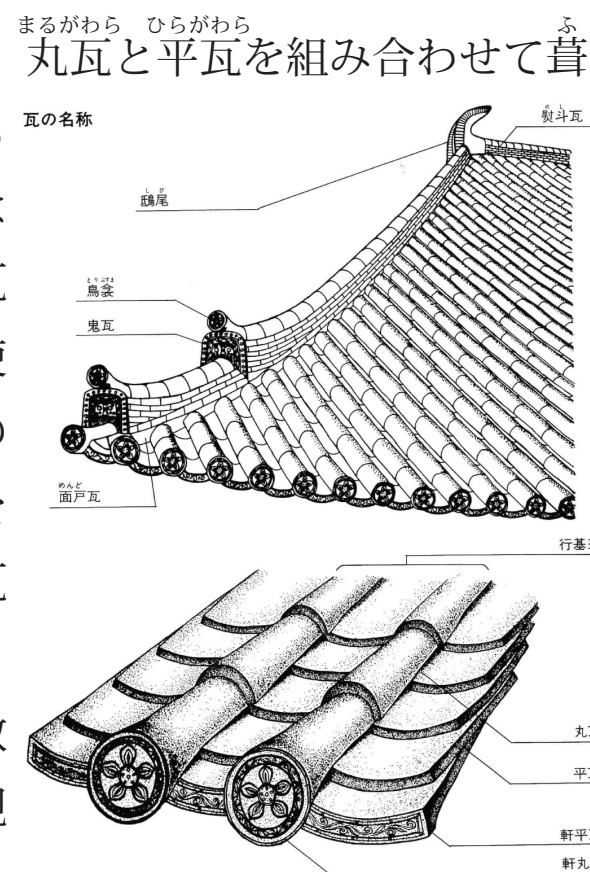
寺院跡からはこの他にも沢山の瓦が見つっています。

★古代の屋根瓦★

瓦を製作し屋根に葺く技術は、仏教寺院を作る技術の1つとして6世紀末に日本に伝わりました。

古代の瓦屋根は「本瓦葺」といって、丸瓦と平瓦を組み合わせて葺くものです。現代住宅で使われている江戸時代に考案された「棧瓦葺」とは異なった葺き方をしていました。「本瓦葺」では丸瓦と平瓦を組み合わせて使うのに対して、「棧瓦葺」では、両方の機能を合体させた一枚の瓦で瓦屋根を構成している点です。17世紀以前の瓦屋根はほとんどが「本瓦葺」でした

「本瓦葺」を使った現存する建物は数少ないですが、機会があったら是非現代の瓦屋根と比較してみてください。



本瓦葺の屋根と各部の名称

★明治大学 若狭 徹 准教授が見学に訪れました★

9月19日、古墳時代の研究者である明治大学 若狭 徹准教授が川除屋敷裏遺跡B地点の見学に訪れました。若狭先生の専門は古墳時代ですが、古墳の終末と密接な関連がある寺院跡についても研究対象とされています。

「群馬県の古墳時代から奈良時代の変遷を知る上で非常に重要な発見」とのコメントを頂きました。



寺院跡を見学する若狭准教授（右）

牛田川除地区発掘ニュース 10月号
平成30年9月25日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 11月号

★今月のニュース★

徐々に明らかになる古代寺院跡

発掘調査が進展し、古代寺院の内容が徐々に明らかとなってきました。

調査中の古代寺院では、大量の瓦が出土しており、この寺院には瓦が葺かれた瓦屋根であったことが明らかとなっています。瓦屋根はかやぶいたぶ萱葺きや板葺きの屋根と違い、焼き物の瓦を大量に載せるため大きな荷重がかかります。そのため穴を掘って柱を立てるような方法では、瓦の荷重で柱が沈んでしまい、建物が傾いてしまいます。古代寺院にはこれを防ぐための方法が駆使されていました。

その一つが掘込地業と呼ばれる技術です。掘込地業は建物を立てる場所の土を取り去り、種類の違う土を入念に突き固めながら盛り上げ、土を入れ替える地盤改良^{じばんかいりょう}の一種です。こうすることで強固な地盤になり、重い屋根瓦にも耐えることができます。発掘中の古代寺院では20cmほど掘り込まれ土が入れ替えられていました。この土は遺跡の他の場所に比べて非常に硬くしまっています。



発見された掘込地業の痕跡



寺院は約9×11mほどの大きさで東西に長い長方形です。建物があつた周りには石や瓦を並べて区画しています。

★ 発掘調査の現地説明会開催 ★



現在発掘中の川除屋敷裏遺跡B地点の古代寺院を、皆さんにより知っていただくため、遺跡の現地説明会を下記の通り開催します。下記の解説時間に、調査担当者が遺跡について解説を行います。藤岡市で初めて発見された古代寺院を見学することができる貴重な機会です。

皆さん、是非おいでください。

記

1. 日 時 平成30年11月11日（日） ※雨天の場合は中止

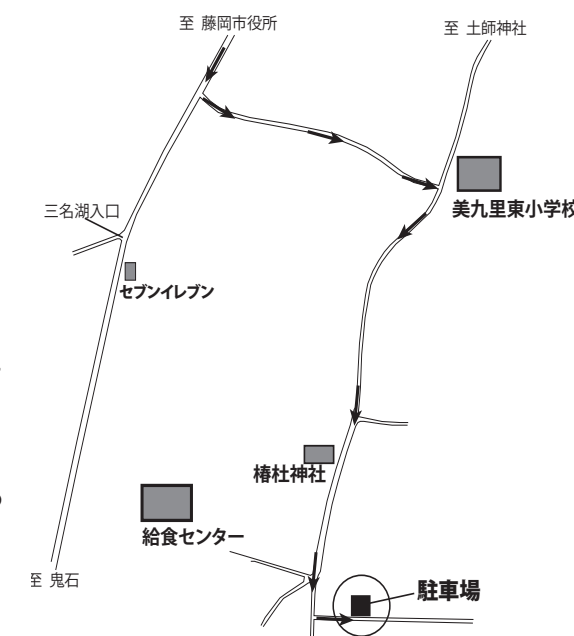
解説時間 10時・11時・13時・14時 計4回

2. 受 付 地図の駐車場で受付の上、ご来場ください。

※駐車場はございますが、置ける台数が限られるため、お近くの方は徒歩・自転車でお越しいただけるようお願いします。

3. 内 容 現在調査中の古代寺院跡等について発掘担当者が解説を行います。

4. その他 発掘現場は足元が悪いため、歩きやすい靴・服装でお越しください。



現地説明会会場周辺の地図

★島根大学 大橋泰夫 教授が見学に訪れました★

新発見の貴重な古代寺院を見学に様々な考古学者が現場に訪れています。10月5日には、島根大学から大橋泰夫教授が見学に訪れました。大橋教授は寺院研究の専門家で、建物跡は寺院の中でも中心的な本尊を納める金堂^{こんどう}ではないかとのことでした。



出土した瓦を観察する大橋教授（左）

牛田川除地区発掘ニュース 11月号
平成30年10月25日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 12月号

★今月のニュース★

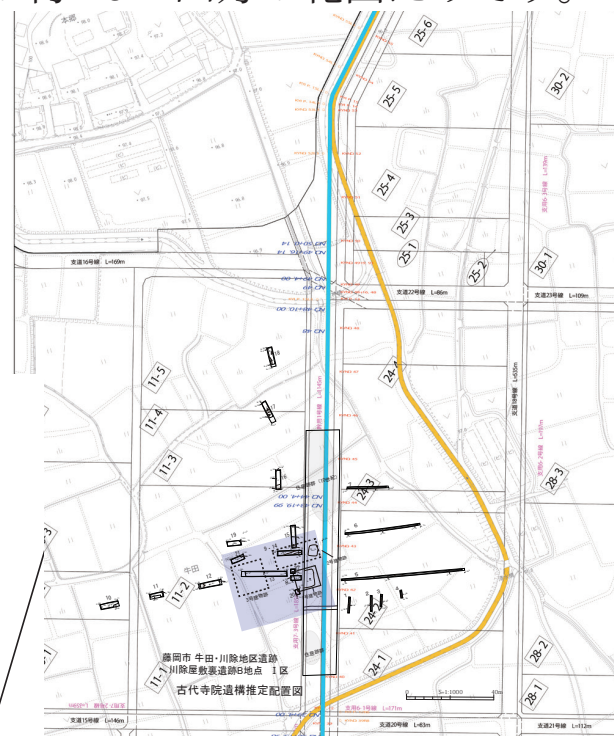
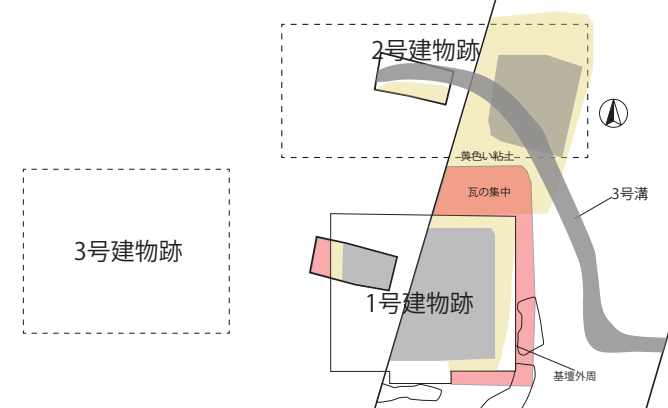
古代寺院跡の広がり

発見された古代寺院である^{うしたはいじ}牛田廃寺の範囲を確認するため、10・11月に周辺の試掘調査を実施しました。その結果、いくつかの新しい事実が得られています。

まず、寺院がつくられた当時は寺院の場所は周りより高かったということです。現在では平坦な地形ですが、当時は起伏に富んでおり、その一番高い場所に寺院をつくったことが明らかとなりました。

次に、少なくとも3棟の建物がこの辺りにあったことがわかりました。発掘では2棟の建物を確認していましたが、試掘の結果、2号建物跡の大体の範囲が判明し、さらに西側にもう1棟別の建物跡が見つかりました。試掘調査は寺院周辺を広範囲に行いましたが、寺院と関係する痕跡が見つかったのは、図の約40m四方の範囲だけです。これで牛田廃寺の^{じいき}寺域が明確になったのは大きな成果と言えます。

これらの建物がそれぞれどのような役割であったのかの解明が今後の課題と言えるでしょう。



牛田廃寺の推定寺域（右図）と
推定される建物の配置（左図）

★ 現地説明会を開催しました ★

藤岡市で初めて見つかった古代寺院（牛田廃寺）の現地説明会を、11月11日（日）に開催しました。晴天に恵まれ、160人もの方にご参加いただきました。本当にありがとうございました。

現地説明会では、発掘調査中の古代寺院について説明を行いました。その後の調査で新たな発見がいくつかあり、寺院の範囲や建物の位置も徐々に明らかとなってきています。新たな発見がありましたら、「発掘ニュース」で皆さんにご紹介していきたいと思います。



現地説明会 解説の様子



展示見学風景



展示した古代寺院で見つかった遺物

牛田川除地区発掘ニュース 12月号
平成30年11月22日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 1月号

★今月のニュース★

明らかになりつつある古代の大集落

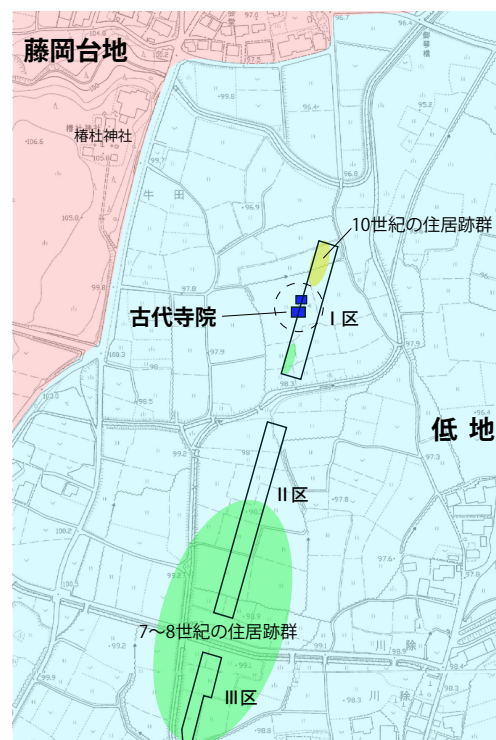
地元の方々また関係者のご理解とご協力により、牛田^{うしたはいじ}廃寺が現状保存されることになりました。牛田廃寺は現状保存されることから、必要なデータを採った後に最後まで発掘をせず埋め戻すことになりました。極めて貴重な文化遺産である牛田廃寺を後世に残すことができ、厚くお礼申し上げます。

現在は、最後の調査区である尻無川南のⅢ区で発掘調査が大詰めを迎えています。この周辺では、牛田廃寺と同時期の住居跡が大量に見つかり、牛田廃寺を支え信仰していた人々が住んでいた集落であったことがわかって来ています。

何回も建て替えられ、重複している住居跡が見つかり、この地域に家を繰り返し建てて生活していました。今回の調査区内だけでも 100 軒を超える住居跡が見つかり、お



複雑に重複している住居跡群（Ⅱ区南）



古代寺院と集落の位置

り、発掘を行っていない箇所も合わせると、この何倍もの住居跡が存在していると思われます。藤岡市内で奈良・平安時代の住居がこれだけ集中しているところは他になく、藤岡市を代表する一大集落であったようです。

住居での瓦の廃材利用～寺院の影響力の低下？～

牛田廃寺と同時期の集落は、寺院からやや離れた場所に作られており、牛田廃寺周辺が当時の人々に意識され、特別な場所であったことが集落のまとまりから読み取れます。

集落からは、寺院と関係するような遺物はほとんど出土していませんが、一部の住居跡のカマドには、牛田廃寺から持って来た瓦を利用しカマドが作られていました。今の所、2軒の住居跡で見つっていますが、いずれも9～10世紀（平安時代）に作られた住居跡です。牛田廃寺が作られたのは8世紀（奈良時代）ですが、8世紀の住居からは瓦は全く見つかりません。

カマドの瓦利用は周辺の住民が、権威があり信仰の対象であった寺院の瓦を個人住宅で転用しているということであり、寺の創建から時間が経った9～10世紀には、牛田廃寺の権威や影響力が低下していたことを示しているのかもしれませんが。



瓦を利用した9世紀のカマド（106号住居跡）



瓦を利用した10世紀のカマド（60号住居跡）

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 2月号

★今月のニュース★

今年度の発掘調査が終了しました。

12月末で5月から実施していた平成30年度分の発掘調査は全て完了しました。地元の方々、8ヶ月に及ぶ長い期間での現場での発掘作業に参加いただいた調査作業員のみなさん、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

かわよけやしきうらいせき
川除屋敷裏遺跡B地点の発掘調査では、遺物収納箱100箱ほどの大量の土器や瓦といった遺物が出土しています。これらは成果報告書を刊行し、最終的に藤岡歴史館に収蔵・展示されますが、発掘現場から掘り出された状態では泥だらけですので、調査後の1月中旬から藤岡歴史館で水洗作業を実施しています。

水洗作業は、発掘が終わってから初めて行う整理作業で、発掘現場ではわからなかった土器の特徴など様々なことがわかってくる重要な作業になります。



藤岡歴史館での水洗作業の様子



水洗して汚れが落ちた土器

瓦に書かれた文字

発掘調査した牛田廃寺からは、寺院の屋根に葺かれた瓦が大量に見つかっています。軒丸瓦や軒平瓦、丸瓦、平瓦といった種類の瓦が出土しました。その中には数は少ないですが、瓦に漢字で文字を書いた文字瓦が少数ですが見つかっています。

文字瓦は、古代の地域社会を知るうえで重要な資料です。文字瓦にはよく意味がわからない文字も多いのですが、中には人の姓名や当時の郡名、郷名が書かれた瓦があります。当時の瓦は寺院の建立者が作るのではなく、各地の有力者が寄進したものと考えられています。そのため、誰がこの瓦を納めたのかわかるように人の姓名や当時の郡名、郷名を瓦に記しました。これを調べることで寺院の建立者が、どの程度の地域に影響を持っていたかの重要な手がかりになります。

牛田廃寺では、「大十」2点、「方（方の周りに□を2つ重ねたもの）」1点の3点の文字瓦が見つかっています。文字の意味はわかりませんが同様の文字瓦が上野国分寺で見つかっており、当時の姓名や郡名を表したものと考えられます。これからの水洗作業でもっと多くの文字瓦が見つかるでしょう。



文字瓦「大十」



文字瓦「方」（周りに二重の□）

牛田川除地区発掘ニュース 2月号
平成31年1月24日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



牛田・川除地区発掘ニュース 最終号

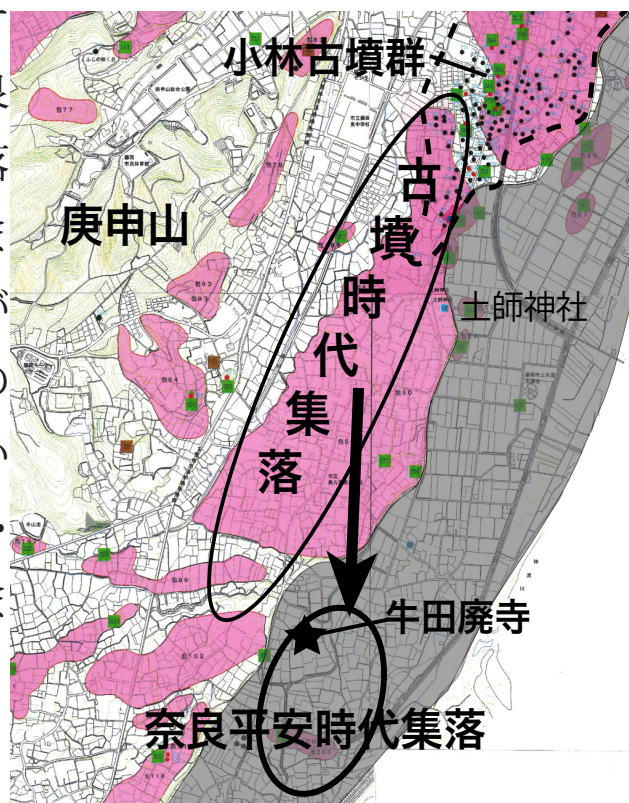
★平成 30 年度の調査のまとめ★

牛田・川除発掘ニュースも今号で最終号になります。川除屋敷裏遺跡 B 地点の調査では、古代寺院をはじめとして様々な発見がありました。最終号では、調査成果のまとめと、これまでにわかったことを紹介していきたいと思います。

集落の始まりと展開

遺跡からは、古代の人々が暮らしていた住居跡が沢山見つかりました。限られた面積を掘っただけですが、100 軒を超える住居跡が見つかっており、調査していないところも含めるとこの何倍もの住居があったと考えられます。このような規模の遺跡は藤岡市内でもあまりなく、この地域を代表する大集落と言えます。

出土した土器から住居の時期がわかりますが、ほとんどが 8 世紀以降の奈良～平安時代の住居です。それ以前の時期の住居は少数で、奈良時代に突然住居が増え、大きな集落となったことが明らかとなってきました。本郷には古墳時代の大集落があり、牛田川除とは逆に奈良時代の住居が少ないため、そこに住んでいた人たちが奈良時代になって牛田・川除地区に居住を移したと思われます。



美九里地区の古墳～奈良平安時代の集落の動き

牛田川除地区の開墾の始まりと牛田廃寺の建立

集落が大規模になる時期と、新発見の牛田廃寺が創建される時期はほぼ同時であり、両者にはなんらかの関係があったと思われます。

寺院の建立は、仏教で国を納めようとする国の政策であり、国の掛け声で全国に官営の国分寺^{こくぶんじ}が建立され、日本で最初の国営事業が行われました。この中で各地の有力者も自分の領地の中に寺院を作っていきます。氏寺^{うじでら}と呼ばれるもので牛田廃寺も藤岡地域の有力者が作った氏寺だったのでしょう。

奈良時代前期の 723 年には、墾田^{こんでん}を奨励するため三世一身の法^{さんぜいつしんのほう}が發布されます。これは墾田の私有を認めるもので、新たに墾田すればその田を得ることができるという法律です。牛田廃寺やその周辺の住居跡群はちょうどこの時期に作られました。つまり、三世一身の法が發布された時期と、牛田・川除地区で集落規模が突然増大することや牛田廃寺建立の時期が重なり合っており、三世一身の法が牛田川除地区の開発のきっかけとなったと推測できます。牛田廃寺は、牛田・川除地区の開拓拠点、また精神的な支柱として当時の有力者が建立したものであると言えるでしょう。

牛田廃寺と周辺の遺跡の調査は始まったばかりです。新しい事実が判明したら皆さんにまたご紹介したいと思います。

一年間ご愛読ありがとうございました。



牛田廃寺と周辺に広がる田畑

牛田川除地区発掘ニュース 最終号
平成 31 年 2 月 15 日
発行：藤岡市教育委員会
文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾^{フミヅケ}
藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997